



学 会 通 信

第 82 号

2017 年 5 月 16 日発行

## 目次

第 24 回日本教育メディア学会年次大会にあたってご挨拶	2
第 24 回日本教育メディア学会年次大会のご案内	3
ICoME2017 のご案内	6
第 1 回研究委員会・企画委員会合同研究会・ワークショップのご案内	7
第 2 回企画委員会 ワークショップ報告	8
論文投稿のご案内	9
理事会議事録	10
学会費納入のお願い、入会者・退会者	12

---

## 第 24 回日本教育メディア学会年次大会にあたってご挨拶

---

大会実行委員長 村野井 均（茨城大学）

2017 年 15 日（土）、16 日（日）の 2 日間にわたり、第 24 回日本教育メディア学会年次大会が、水戸市文京町にある茨城大学にて開催されます。

水戸は、歴史書「大日本史」を 260 年もかけて作成したという教育県です。観光名所に、日本 3 大名園の 1 つ偕楽園があります。偕楽園は、名前のおり偕（とも）に楽しむ庭園です。昔から庶民も梅見をしたり、もみじを楽しんだ庭園で、園内の好文亭には、殿様と庶民がいっしょに勉強したり、景色を眺めて酒を飲む座敷があります。みんなで楽しむ文化があるところです。天狗党の乱や桜田門外の変のように、考えたことを実行する県でもあります。水戸の周辺には、大洗の水族館やミュージアムパーク茨城自然博物館などユニークな博物館や、アニメ「ガールズ&パンツァー」で町おこしをする大洗町があります。オタクの聖地になっています。

15 日は、附属小学校の公開授業を見ていただきます。アンプラグド・プログラミング学習という珍しい授業です。なお、この日は、茨城大学と茨教組が作る教育研究連盟の大会と重なっていますので、キャンパス内は大勢の教員で込み合います。会場案内等の掲示にはご注意ください。また、会場が手配できなかったため、15 日は茨苑会館、16 日は教育学部 B 棟で行います。会場が変わること、ご迷惑をおかけします。

魅力度が日本一低い茨城県ですが、教育実践の多様さと研究では十分に魅力を感じていただけるよう実行委員会一同準備をいたします。たくさんの方の参加をお待ちしています。

---

## 第 24 回日本教育メディア学会年次大会のご案内

---

年次大会委員会 委員長：中川（放送大）、副委員長：中橋（武蔵大）、小林（茨城大：開催地）  
大会実行委員会 委員長：村野井（茨城大）、石川（常磐大）、小林（茨城大）

### 1、日時と場所

10月14日（土）、15日（日） 茨城大学（14日：茨苑会館、15日：教育学部）

### 2、大会プログラム

10月14日（土）会場：茨城大学茨苑会館

9:30～ 受付  
10:00～11:30 地元企画：公開授業と振り返り  
教科学習におけるプログラミング教育（小学校第6学年）  
授業者：清水 匠（茨城大学教育学部附属小学校）  
司会：中川 一史（放送大学）、コメンテータ：小林祐紀（茨城大学）  
12:30～13:20 総会  
13:30～15:30 一般研究発表（1件あたり30分発表）※質疑と交代を含む  
15:40～17:00 シンポジウムⅠ『授業実践における教育メディアの役割』  
登壇者：調整中  
コーディネータ：黒上 晴夫（関西大学/本学会会長）  
17:30～19:30 懇親会（茨苑会館内を予定）

10月15日（日）会場：茨城大学教育学部

9:30～11:30 課題研究発表  
11:30～12:30 昼食  
12:30～14:30 一般研究発表（1件あたり30分発表）※質疑と交代を含む  
14:45～16:45 シンポジウムⅡ『学校放送番組とメディア・リテラシー』  
登壇者：村野井 均（茨城大学）、宇治橋 祐之（NHK放送文化研究所）、薄井直之（古河市立上大野小学校）  
コーディネータ：中橋 雄（武蔵大学）

### 3、課題研究

課題研究1「アクティブ・ラーニングの実践と評価」

コーディネータ：泰山 裕（鳴門教育大学）、岩崎 千晶（関西大学）

「アクティブ・ラーニング」という言葉が注目されてから、様々な実践が積み重ねられてきました。初等中等教育においては、次期学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」という学びの姿が記述され、高等教育においては平成24年度の答申において学生にとって受動的な教育の場からアクティブ・ラーニ

ングへの転換が必要だと提示されるなど、アクティブ・ラーニングを目指した実践の重要性はますます高まっています。そこで、本課題研究では、アクティブ・ラーニングのための授業設計や実践、評価方法などに関わる発表を募集します。小学校、中学校、高等学校、大学などの実践研究者が交流し、それぞれの校種におけるアクティブ・ラーニングの特徴を整理しながら幅広い視点からアクティブ・ラーニングについての議論を深めたいと考えています。

## 課題研究2「グローバル時代におけるメディア活用」

コーディネータ：佐藤 慎一（日本福祉大学）、山本 良太（東京大学）

メディアは文字通り、何かと何かを取り結ぶ際に中間で作用するものです。近年のグローバル化に伴い、国境や文化、集団を越えた様々な実践が展開されていますが、本課題研究では、そうした様々な実践においてメディアをどのように活用することができるかを議論します。事例として、海外との協働プロジェクトや交流学習、異文化間教育、持続可能な開発のための教育（ESD）、日本人学校・補習授業校での教育実践、国際教育開発の実践などを幅広く募集し、グローバル時代におけるメディアの在り方について検討します。

## 課題研究3「授業・学習を再定義する教育メディア」

コーディネータ：稲垣 忠（東北学院大学）、林 向達（徳島文理大学）

クラウドサービスや学習者用端末の普及は、授業や学習をどう変えていくのでしょうか。授業時間にしばられることなく、いつでもどこでも主体的に学ぶ、ソーシャルメディアでさまざまな他者と協働するなど、多様な可能性が拓かれつつあります。本課題研究では、反転授業、ブレンデッドラーニング、学校と家庭の学習連携、授業外学修、オープン教材の活用等、学校種を問わず、教育メディアによって実現される学習環境と、そこで展開される学びについて新たな視座、実践、実証成果等を交流し、今後の教育メディア研究に資する討議を展開します。

## 課題研究4「メディア・リテラシー教育の新しい展開」

コーディネータ：佐藤 和紀（常葉大学）、後藤 康志（新潟大学）

ICT環境の急速な進歩により、児童生徒のメディア利用には大きな変化があります。学校におけるタブレット端末導入など学習環境の変化に伴って、メディア・リテラシーとその教育に関する研究の重要性も増しています。一方、次期学習指導要領では、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」や「何ができるようになるか」も重視されているものの、こうした新しい展開に対応する研究や実践が十分に蓄積されているとはいえません。このような状況をふまえ、本セッションでは、タブレット端末を活用した実践やソーシャルメディアの時代に対応した学習などに関する理論的、実践的な研究を幅広く募集します。

## 4、大会までのスケジュール

- ・ 課題研究プロポーザル（要旨）の申し込み期間  
2017年 5 月22 日（月）～6 月 19 日（月）  
採否通知は7月上旬頃におこなう予定です。
- ・ 課題研究 原稿提出締切 2017年 8 月 31日（木）
- ・ 一般研究募集

原稿提出期間 2017年 7 月 17 日 (月) ～8 月 31 日 (木)

## 5、参加申し込み

・参加申し込みは、昨年通り、以下の通りとします。

会員 3000 円 (事前)、4000 円 (当日)

学生会員 1000 円 (事前)、2000 円 (当日)

非会員 4000 円 (事前)、5000 円 (当日) ※ただし、非会員の現職教員は無料

学生非会員 2000 円 (事前)、3000 円 (当日)

懇親会 5000 円 (学生 3000 円)

## 6、その他

・論集は、昨年同様、pdfのみとします。ご自身の端末等を持参するか、事前に学会の Web からプログラムを印刷してきてください。

・土曜は学食が営業していますので、弁当の予約は日曜のみとします。なお、大学周辺にはコンビニ、飲食店などがあります。

---

## ICoME2017のご案内

---

### 日本教育メディア学会共催のICoME2017 (15th International Conference for Media in Education) のご案内

「15th International Conference for Media in Education」

日時：2017年8月2日（水）～4日（金）

場所：ハワイ大学マノア校

詳細：<http://jaems.jp/icomel/>（日本教育メディア学会サイト）

<https://icomel2017.net/>（現地国際学会サイト）

参加費（予定）：100ドル（一般）・30ドル（学生）

ICoME (International Conference for Media in Education) は今回で第15回目の実施となり、今年度は米国ハワイで実施することになりました。ICoMEは日本教育メディア学会（JAEMS）、日本教育工学会（JSET）、韓国教育情報メディア学会（KAEIM）、中国教育工学会（CAET）、アメリカTCC (Technology, Colleges and Community) との連携によって開催されます。

国内外からの多くの教育研究者や実践者が集まり、教育メディアや教育技術に関する研究や実践の発表、共有の場となります。学部生、大学院生の発表交流のためのラウンドテーブルセッションも準備されています。

前年度（第14回目@京都外国語大学）の国際学会では、10カ国から270人を超える参加者を迎えて実施いたしました。本会が各国の研究者間で行われる互恵的な意見交換の場となりますよう、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

#### <原稿受付に関する重要な日程>

5月30日（火）：発表概要の提出（英語200語以内）

※ただし、米国への入国VISAが必要な人は、5月15日が締め切りですのでご注意ください。発表概要の受諾もすぐに対応するようにします。（日本国籍はESTA登録必要）

6月8日（木）：発表概要の受諾

6月30日（金）：最終原稿の提出

何か不明な点がございましたら、英文にて現地事務局にお問い合わせください。

Dr. Bert Kimura, Professor Emeritus, University of Hawaii (ハワイ大学 名誉教授)

メールアドレス：[bert@hawaii.edu](mailto:bert@hawaii.edu)

---

## 第1回研究委員会・企画委員会合同研究会・ワークショップのご案内

---

企画委員会担当 佐藤 幸江（金沢星稜大学）

研究委員会担当 井ノ上憲司（大阪大学）

ワークショップタイトル：次期学習指導要領を見据えた授業づくり

研究会タイトル：次期学習指導要領に対応する教育と小中高大接続／一般

先日、幼稚園・小学校・中学校の新しい学習指導要領が公表されました。高等学校学習指導要領も、年内の公表に向けて準備が進められています。

これまでの学習指導要領に比べ、よりいっそうの思考力・判断力・表現力などの能力の育成が求められるとともに、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善が求められています。また、ICT活用の更なる推進、プログラミング教育の小学校への導入など、教育メディアをめぐる新たな課題が示されています。

本ワークショップにおいては、文部科学省による次期学習指導要領の解説、それを見据えた先進的な授業実践発表、さらに「主体的・対話的で深い学び」への授業づくりのワークショップを企画いたしました。たくさんの実践者、研究者、教育関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

合わせて、今年度も研究会委員会との合同企画となっております。午後からの研究会では、初等、中等、高等教育のすべての教育機関において、この新しい学習指導要領や新しい学習方法にどのように取り組んでいくか、また、新しい教育手法の実践事例などについて、これらの学習・教育手法に鑑みた小中高大接続の在り方についての考察や事例についてなど広く募集し、論議を深めたいと考えます。

場所：金沢星稜大学（石川県金沢市御所町丑10-1）

<http://www.seiryu-u.ac.jp/u/outline/access.html>

日時：7月15日（土）ワークショップ 9:50-12:30

研究会 13:30-16:40

※18:00より金沢駅周辺にて情報交換会の開催を予定しています

時程：

9:30 ワークショップ受付

9:50 開会

10:00-10:30 文部科学省講演

10:40-11:30 各教科等の実践事例ポスターセッション・タイム

11:40-12:30 授業づくりワークショップ

13:30 研究会受付

13:40 研究会開始

16:40 研究会終了

18:00 情報交換会

研究会発表申込締切：5月31日（水）

研究会原稿提出締切：6月30日（金） <http://jaems.jp/meeting/>

## 第2回 企画委員会 ワークショップ報告

テーマ「デジタル教科書のメリット・デメリットを考える」

報告者：村川 弘城（日本福祉大学）

- 1, 日時：2017年2月10日(金) 14:00~17:00
- 2, 会場：内田洋行新川ユビキタス協創広場 CANVAS
- 3, 参加者：40名

今回の研究会は、「デジタル教科書のメリット・デメリットを考える」をテーマに開催されました。文部科学省の専門家会議では、デジタル教科書を2020年から導入することを提案していますが、多くの教師はこれまで使ったことのないデジタル教科書の導入に大きな不安を抱えています。これに対し、デジタル教科書の役割や期待できる効果、現状の学習活動との違いなどについて議論するため、本研究会のテーマが設定されました。参加者の中には非会員も多く見られ、テーマに対する注目の大きさが窺えました。



CANVAS 研究会は「パネリストからの発表」と「質疑応答」の2部構成で実施されました。

前半の「パネリストからの発表」では、パネリストが15分ほど使い、それぞれの立場からデジタル教科書に関する意見や取り組みなどが報告されました。推進の立場からは、「アナログであっても未だ

により良い学びを議論し続けており、デジタルだから完璧で無ければならないと言うわけではないこと」や、「アナログではできないデジタルの良さがあること」などが報告されました。また、懐疑的な立場からは、「図や絵で表すことができるようになったとしても文章が読めなければ意味が無いこと」や、「デジタル教科書を使えば頭が良くなるというのは幻想であること」などが報告されました。

後半の「質疑応答」では、パネリストを指定して前半の報告に対する質問や疑問を投げ



かけ、それに指定されたパネリストが答えるといった形で進められました。会場からだけでなくパネリストからも多くの質問や疑問が投げかけられました。時たまデジタル教科書の範囲を超え、ICT教育の是非などにも立ち戻りながら議論が進められました。

まとめとして司会の中橋雄先生（武蔵大学）からは、まず従来の情報をインプットできるだけのものから、創造性を高めたり、異質な他者と協調して新しい価値を創造したりできるような教科書に変わっていく必要があることが示されました。加えてそのためには、デジタル教科書を使うことを前提とした環境を考えていく必要があること、特に教師の授業力が極めて重要であり、そのような授業を引き出すことができるような教科書へと変わっていく必要があることなどが提案されました。

全体を通して結果的に、「デジタル教科書を推進していこうという人と、懐疑的にとらえている人を登壇者として招き、学習のメリットとデメリットについての熱い議論が交わされる」という宣伝文句に偽りなく、次から次へと手が挙がり、70分もの時間を「質疑応答」として設定していたにも関わらず、全ての挙手に答えることができないほどの盛り上がりでした。

本研究会にご参加いただき、研究会を盛り上げて頂きました皆様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



---

## 論文投稿のご案内

---

### ■ 『教育メディア研究』 一般論文募集のお知らせ

『教育メディア研究』では、論文を広く募集しています。〆切は特にありません。随時受け付け、その都度、査読プロセスを始めています。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

締切：随時

---

## 理事会議事録

---

第8期 第4回理事会（定例）議事録

〔日 時〕 2017年4月15日（土）13:00-15:30

〔場 所〕 東京（東京大学本郷キャンパス）、大阪（関西大学梅田キャンパス）、2会場をテレビ会議で結び実施

〔出席者〕 会長、理事14名、委任状（会長に一任）10名、監事1名

会長 大阪：黒上晴夫

理事 東京：宇治橋祐之、浦野 弘、岸磨貴子、後藤康志、佐藤幸江、中川一史、中橋雄、  
村野井均

大阪：影戸誠、久保田賢一、佐藤慎一、寺嶋浩介、永田智子、林向達

欠席（議長に委任）：浅井和行、稲垣忠、小柳和喜雄、小林祐紀、鄭仁星、鈴木克明、  
藤田稔、堀田博史、堀田龍也、村上正行、渡辺雄貴

監事 東京：佐々木輝美、欠席：生田孝至

事務局 東京：山本良太、大阪：泰山裕

<審議事項>

（1）入会者・退会者について

事務局長から、前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり、審議の結果承認された。また、年会費未納による除籍者については次回の年次大会までの間を猶予期間とし、それまでに年会費の納入があれば除籍を取りやめることが承認された。

（2）2016年度事業報告・2017年度事業計画について

事務局長から、「2016年度事業報告・2017年度事業計画案」が示され、審議の結果承認された。

（3）年次大会の内容、参加費等について

年次大会委員長および大会実行委員長からシンポジウム・基調講演・課題研究、共催の計画が提案された。審議の結果、シンポジウム・基調講演のテーマ・登壇予定者、共催については原案通り承認され、課題研究については4つのテーマについて開催する計画が承認された。大会参加費については、昨年度と同様にする旨が確認された。また公開授業、開催場所の関係でプログラムの順番が変更になる可能性がある旨について報告された。

（4）学会通信 台割案について

広報委員会委員長から今後の学会通信（82～86号まで）の台割案について提案がなされ、審

議の結果承認された。ただし、研究会などの開催日程により記事掲載予定号が変更になる場合があることが確認された。

#### (5) 顕彰について

事務局長から昨年度で終了した「井内賞」に変わる顕彰について「日本教育メディア学会論文賞」とすることが提案された。審議の結果、提案は認められ、対象を若手研究者に限定しないことが確認された。また、論文投稿の条件として筆頭著者が学会員であることを追加すること、賞金を5万円とし授与することで承認された。それに伴い顕彰委員の増員が提案され、原案通り承認された。

#### (6) 各種委員会規約について

事務局長から各種委員会規約の策定について説明があり、審議の結果承認された。

#### (7) 今後の選挙のあり方について

事務局長から、現在の選挙のあり方について説明があり、電子的な投票システムの採用とそれに伴う選挙規定の変更について提案され、今後の選挙の進め方について意見が交換された。選挙規定については次回の総会で承認を得ることとなった。

#### (8) その他

##### ・NII-ELS の終了に伴う J-Stage への移行について

J-Stage への移行について、今後の移行作業について事務局長から説明があり、審議の結果承認された。

#### <各種委員会報告・審議事項>

##### (1) 編集委員会（国内担当）報告

編集委員会（国内担当）副委員長から『教育メディア研究』編集進捗状況について報告がなされた。また論文投稿のテンプレートの修正作業に着手することが提案され、審議の結果承認された。

##### (2) 編集委員会（国際担当）報告

編集委員会（国際担当）副委員長から、IJEMT ジャーナル編集の進捗状況について報告がなされた。また投稿数増加により委員の増員について提案され、審議の結果承認された。

##### (3) 研究委員会（国内担当）報告

研究委員会（国内担当）副委員長から、2016 年度研究会開催報告と 2017 年度研究会開催日程・場所について報告がなされた。

##### (4) 研究委員会（国際担当）報告

研究委員会（国際担当）委員長から、ICoME2017 開催に関する進捗状況について報告がなされた。また、学会員 ML を通じて、会員に対して ICoME2017 参加者募集について周知することになった。

（5）企画委員会報告

企画委員会委員長から、今年度の計画について報告がなされた。

（6）その他 次回理事会について

事務局長から次回理事会について報告があり、確認された。

以上

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

6月末までに納入がない場合、論文誌24巻1号の送付を行いませんので、ご注意ください。7月以降に納入された場合、24巻2号と合わせて送付します。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨニイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしく願いいたします。

## 【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・購読 (1 団体)・・・学校法人国際学園星槎大学

新入会員・正会員 (8 名)・・・下郡 啓夫、伊藤 朋子、石川 伸明、上坂 恒章、  
石村 卓也、佐藤 佐敏、山内 雅博、瀬戸崎 典夫

新入会員・学生 (2 名)・・・古賀 竣也、Hanmo Jeong

退会者・正会員 (6 名)・・・梨本 加菜、木原 俊行、河村 壮一郎、高田 和典、  
杉 聖也、上田 平三郎

退会者・学生 (3 名)・・・関本 春菜、堀井 友絵、胡 鑫

会員種別変更 (2 名)・・・中島 智秀、勝見 慶子

## 除籍予定者

### ・正会員

朝倉 暁生、石田 隆、岩見 龍也、上田 信行、エリック ブレイ、大庭 茂美、小川 雅弘、小田 光康、小野 和、神山 正人、河岸 美穂、神崎 友子、岸本 雅行、栗田 一誠、栗田 るみ子、栗原 泰子、コスギ ヨイ、近藤 武夫、笹倉 千紗子、田井 志保里、瀧口 美絵、塚野 弘明、徳村 朝昭、鳥山 正晴、中植 正剛、中島 俊明、中田 栄、中村 光伸、野崎 肇子、野田 令子、野呂 薫、藤原 典英、藤井 玲子、古川 典子、松崎 邦守、松山 明道、宮澤 誠一、宮田 義郎、元井 一郎、山田 恒夫、山村 繁典、山本 利江、横山 誠二、若松 茂、涌井 史郎、向角 典倫、横田 亮宏、今瀬 繁子、岩田 学、大貫 恵理子、小宮 孝司、佐伯 達也、安田 洋介、山中 司、中沢 保生、柳原 由美子、中島 公洋、寺岡 浩平、浅田 義和、稲井 達也、清水 和久、菅瀬 君子、高橋 暁子、深井 純、お伊 ｼﾞｪｰﾓｽ D.、丸山 裕輔、水上 和夫、山中 昭岳、松本 有

### ・学正会員

青木 太郎、大福 聡平、中川 歩香、山口 晃平、丸山 俊幸、壹岐 信子、川口 弥生、富田 馨、野口 聡、平川 成一、三嶋 亜由美、安井 政樹、一藁 久美子、丁 愚錫、三瓶 頌太

先日開催されました定例総会（2016年11月26日 於：奈良教育大学）にて、会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条の改正が承認されました。改正された規定では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。

ただし今回に限り、10月に開催されます第24回年次大会までに未納分を納入いただければ、除籍を解除いたします。ご確認をよろしくお願いいたします。

会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、事務局（office@jaems.jp）までご連絡ください。

## 第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

(1) 正会員、学生会員、団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をも

って除籍され、会員の資格を喪失する。

(2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。

-----

会員総数 343 名・17 団体

名誉会員：3 名

正会員：302 名

学生会員：38 名

団体会員：6 団体

購読会員：11 団体

(平成 29 年 5 月 8 日 現在)

**日本教育メディア学会 事務局**

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88

大阪教育大学 寺嶋浩介 研究室内

E-mail : [office@jaems.jp](mailto:office@jaems.jp)

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

**広報委員会**

委員長 後藤康志 (新潟大学)

副委員長 渡辺 雄貴 (東京工業大学)

委員 岩崎千晶 (関西大学)

井ノ上憲司 (大阪大学)

遠海友紀 (東北学院大学)